

## AIR 475 における現代美術作家との共同制作による Steam 教育について

**【代表者】** 高増佳子 米子工業高等専門学校 教授

**【共同研究者】** 藤田英樹 島根大学教育学部 教授  
井上 学 米子工業高等専門学校 准教授

### 【研究の目的と内容】

米子市でアーティスト・イン・レジデンス事業を実施している AIR 475（エアヨナゴ）の 2022 年度事業では、現代美術作家岡田裕子氏と三田村光土里氏が滞在制作を行い、米子市美術館や街中の 2 カ所で作品展示を行った。

その作品作りにおいて、島根大学教育学部藤田研究室や美術教室の学生たちや、米子高専ロボコン経験のある井上研究室学生たちがそれぞれの能力を生かしてコラボレーションして作品作りに協力した。これらの活動が Steam 教育として、どのように効果があったのか、アンケートやヒアリング調査などから工学系の学生にとっての学びと、美術系学生にとっての学び、それぞれを明らかにした。

今回のアーティストの作品が立体作品の上に、動いたり音が出たり光ったりするものであったこともあり、立体造形の部分は美術系学生（島根大学藤田先生指導の学生）が担い、その他動いたりする駆動部分の機構は工学系（米子高専井上研）の学生が担った。

またコロナ禍もあり、アーティストが離れた場所（東京）にいたことで、リモートでの対話やミーティングを経てコラボレーションしたことも特徴的であった。

2021 年度からレジデンスで参加していた現代美術作家の岡田裕子氏の作品作りにおいて、2022 年度には実際に作品展示まで行うので、作品作りに関わった学生たちにアンケートやヒアリングしつつ振り返り、学習効果などをまとめる。

8月には作品発表（米子市美術館にて）

9月から振り返りアンケート作成

10月以降にアンケートとヒアリング実施

12月にアーティストと振り返りのミーティングも実施（Zoom にて）

1-3月にまとめ

### 【研究の成果（本研究によって得られた知見、成果、論文、学会発表、外部資金への応募見込み等）】

今回それぞれの学生が制作協力した岡田裕子氏の作品自体は、全体で 11 作品あった。その中には写真 1・2 の通り光ったり、音声を発したり、動いたりする作品が、5 作品あり、米子高専の学生 4 名が担当した。また、電話などモノの形を和紙で型どった張子の作品も写真 2 のように 7 作品あり、島根大学の学生 12 名が担当した。

学生アンケートからは、和紙で貼る前の養生用テープや和紙の種類、和紙を張り重ねる際のノリの種類なども試行錯誤しながら、指導教員の良きアドバイスにより学生たちは多くの学びを得たり、何よりアーティストの仕事を間近で見たり協力した体験が最も良かったと回答があった。また、米子高専の学生たちは、元々アートには関わりがない学生たちであったが、自分たちの専門である電子制御の技術が現

代アートに役に立ったことや、これまで関わりがなかった現代アートにも少し理解が深まったことを回答していた。

島根大学学生は9名の回答があり、全員がまた同じような機会があれば「ぜひ参加したい」と回答していた。

米子高専学生は4名全員の回答があり、ぜひ参加したいはなく、少し参加したいが1人、どちらでもないが2人、少し参加したくないが1名とやや参加には消極的であった。ただし、それぞれアーティストの作品作りに参加したことが学びに役立ったり、気づきがあったという自由回答であった。

またコロナ禍で、異なる学校の学生たち同士が制作段階で直接関わり合うことはほとんどできなかったものの、作品の成果を展示で見たことから、他分野の学生たちの能力に関心を持つような回答もあった。それぞれの指導教員からも、島根大学学生の作品作りにこれまであまりなかったインスタレーション作品に取り組む姿勢が見られたことを挙げておられ、今回の取り組みが良い影響を与えたとのことであった。さらに、米子高専の学生たちは、卒業研究のテーマとしても自分たちの作品協力したメカ作成のことで取り上げており、学習にいかせたことを評価いただいた。主催者であるAIR475のメンバーからも、これまで学生の協力はあったものの、複数の分野の異なる学生たちに協力されたことはなく、大変良い試みであったと回答があった。アーティストからも、リモートでの振り返りの機会に参加学生たちにも話をいただき、多様なメンバーで作品作りができたことなど、評価いただけた。

今後可能であれば、Steam教育関連の研究発表でも発表したいと考えている。

最後に、このようなアートを通して、学生たちの学びに少しでも貢献できたこと、またこれらの研究費に支援いただいたことをここにお礼申し上げます。



写真1

鏡台同士が動きながら会話する作品



写真2

地元中海ケーブルテレビで紹介された画面（張子作品）